

パーク計画概要

■三原内港の土地読み



山から川によって土が運ばれ平地ができ、人が集まり形成されたまちです。人々・生きもの・土・水といった様々なものが出会い集まります。かつては水田や果樹、広葉樹林（里山）といった人の活動がみどりの姿に現れ多層的な風景が広がっていました。土地の文脈も踏まえながら、様々な活動が風景となって立ち現れる新しい港をつくります。

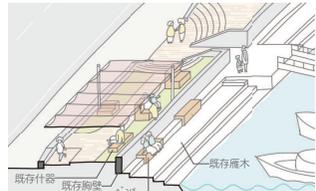
■三原内港から広がる編み目



三原市中心部には地域の活動を支えるプレイヤーたちが存在し、その拠点が点在しています。それらが大きく駅前17と円一17に集中しており離れている一方で、敷地周辺にも福祉施設や個性的なお店があることが分かります。タミナと共通性のあるガ-ゴウ・東屋・タブといった屋根を城下町特有のグリッド状の街路に面したア17としてパーク全体に設定することで、帯人通り・バ-ア17・マ17といった南北方向の3つの軸に加え、東西方向のつながりをつくり敷地内外における回遊性を促します。また、バ-カタミに幅広い地域の活動から観光者まで、それぞれが利用しやすい場を設けていくことで新たな動線が生まれていき、さらに3Dエディデザインによって地域のプレイヤーの活動と連携しながら、三原内港でも地域の活動を育みます。

① みはらし広場

古くからの雁木も活かしながら、因島大橋までの雄大な遠景を望み、静かに佇む場。



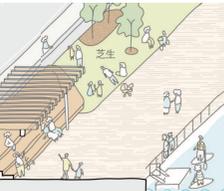
② デック広場

広い芝生とデッキを有し、日常的な利用からキャカイや観水ウォ-ブなど多様なバ-の場にも。



③ バ-広場(海側)

野外ステージに転用できる物見台を備え、港ならではのバ-を演出できる場。



④ バ-広場(街側)

既存バ-部分の街の歩道を港側に拉幅・引き込んで、街へ開いたバ-を開闢。



⑤ プラザ広場

タミナ・わんぱく広場と連携し、待合せや子供たちの見守りなどに適した滞在空間。



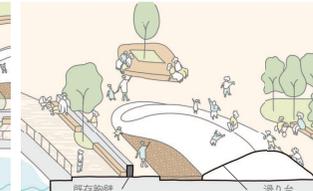
⑥ わんぱく広場

海側の胸壁に守られた安心感のある場。築山の滑り台や原っぱなど子供たちが港で日常的に遊ぶ場。



⑦ 運動広場

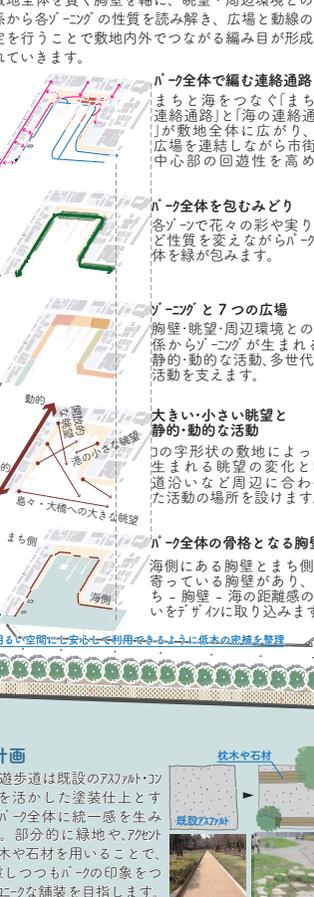
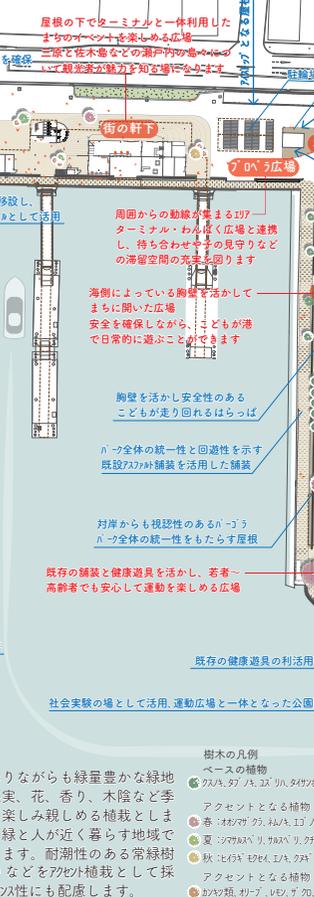
既存の舗装や健康遊具を活かし、若者から高齢者まで安心して運動を楽しめる場。



■街に回遊性を身える

三原はその名の由来の通り三つの小さな扇状地が並ぶ位置にあり、海と山の接点として古くから交流の拠点でした。内港のこの字は、主要な三つの軸とともに、それ以外のグリッド状の小路を三方から受け止めます。西側のヒストリカル商店街・北側の材木17やラフ7など子ども達の居場所、そして東側の病院や老人17施設などと、思い思いに人々が行き来し、三原の都市構造に新しい回遊性を生むことを目指します。

■パーク配置計画



■植栽計画

市街地中心部でありながらも緑量豊かな緑地を創出します。果実、花、香り、木陰など季節や時間に応じて楽しみ親しめる植栽とします。植生図からも緑と人が近く暮らす地域であることが分かります。耐湿性のある常緑樹をベースに花や香りなどをアクセントとして採用することでメタボシティにも配慮します。

■舗装計画

海沿いの遊歩道は既存のアスファルト・コンクリート舗装を活かした塗装仕上げとすることでパーク全体に統一感を生み出します。部分的に緑地やア-バ-として枕木や石材を用いることで、コトへ配慮しつつもパークの印象をつくりだすエ-クな舗装を目指します。

